



**Smart Work, Smart Life**  
テクノロジーでビジネススタイルをスマートに

# 2024年12月期 第1四半期 決算説明資料

AI CROSS株式会社  
(証券コード：4476)

2024.5.15



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

私たちAI CROSSは設立以来、一貫して「「Smart Work, Smart Life」の理念のもと、テクノロジーで企業業務と働くヒトの生活をスマートにするための事業を推進しております。解決したい問題の解決手段は多岐にわたるため、常に前例のないチャレンジの連続です。

一方、お取引する企業様の数も6,000社を超え、私たちの取り組みが着実に広がりを見せていることを実感しております。

今、日本だけでなく、世界の景気の先行きは不透明な状況にあります。そして、日本の出生率が過去7年連続で最小を更新したことでわかる通り、労働人口減少問題も待ったなしの状況です。

問題の解決は一朝一夕にはなし得ませんが、着実に進めていくことで、「Smart Work, Smart Life テクノロジーでビジネススタイルをスマートに」という私たちのミッションが、日本社会でも大きな役割を占めるものになると確信しております。

株主の皆様には引き続き一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



原田典子

1 : FY2024.1Q 業績ハイライト	P.04
2 : FY2024.1Q KPIサマリー	P.13
3 : FY2024.1Q ビジネスハイライト	P.18
4 : Appendix	P.22

(※ 1) 2021年8月の子会社AIX Tech Venturesの設立により、2021年12月期第三四半期より連結決算に移行しております。

(※ 2) 本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを、予め承知おきください。

(※ 3) 本資料に記載されている会社名、サービス名は各社の商標または登録商標です。

# FY2024.1Q 業績ハイライト

(※) 資料中の各数値は、FY2021.3Qからの連結決算への移行しております。従いまして、FY2021.2Q以前の数値は単体決算数値である点をご留意ください。



# FY2024.1Q業績ハイライト (2024年1月1日～3月31日)



Smart Work, Smart Life  
テクノロジーでビジネススタイルをスマートに

## 売上高

**885** 百万円

前四半期比 +10.65% ↑

前年同期比 +5.08% ↑

## 営業利益

上場来  
最高

**118** 百万円

前四半期比 +120.53% ↑

前年同期比 +51.71% ↑

上場来  
最高

## 経常利益

**116** 百万円

前四半期比 +120.34% ↑

前年同期比 +58.73% ↑

## 四半期純利益

**72** 百万円

前四半期比 +102.07% ↑

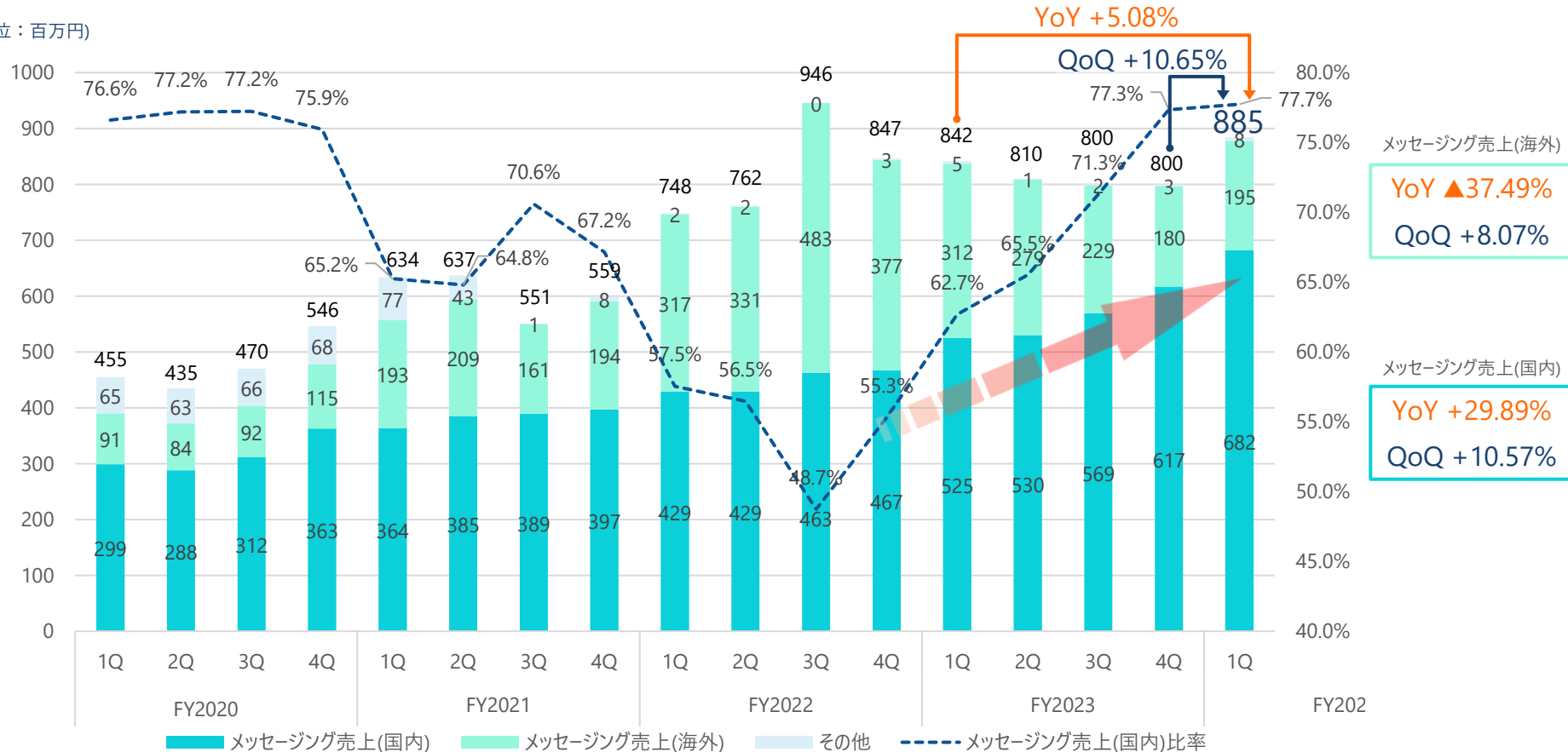
前年同期比 +97.47% ↑

(※) FY2021.2Qにビジネスチャットの事業譲渡を行っており、FY2021.2Q以前の業績についてはビジネスチャット事業分を除いた数値で比較

## 売上高（四半期毎推移）

- 収益性の高い国内顧客の獲得および配信数の拡大に注力し、前四半期比で売上合計に占めるメッセージング売上（国内）は65百万円の増収（+10.57%）、売上高合計では85百万円の増収（+10.65%）
- 前年同期比においても、メッセージング売上の国内比率は15.0%の増加となり、前四半期比同様に157百万円の増収（+29.89%）、売上高合計は42百万円の増収（+5.08%）

（単位：百万円）



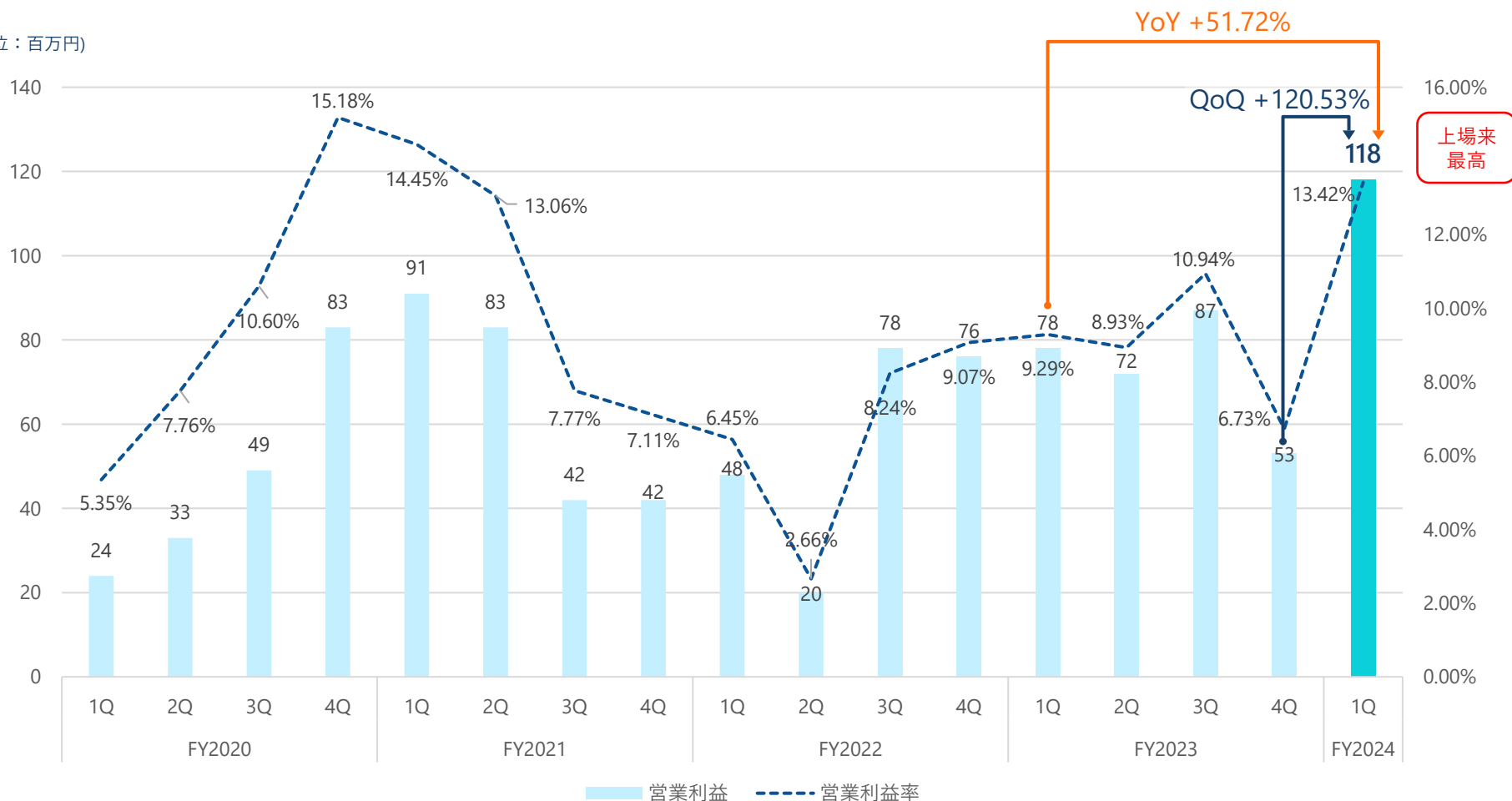
(※1) FY2021.2Qにおけるビジネスチャット事業の譲渡に伴い、FY2021.3Q以降「その他」売上が減少しております。

(※2) メッセージング売上(国内)比率：メッセージング売上全体における、メッセージング売上(国内)の比率

## 営業利益（四半期毎推移）

- 前四半期比は、FY2023.4Qに一時的な人件費増加当四半期における増収により、64百万円の大幅増益（+120.53%）
- 前年同期比においては、前四半期同様に40百万円の大幅増益（+51.72%）

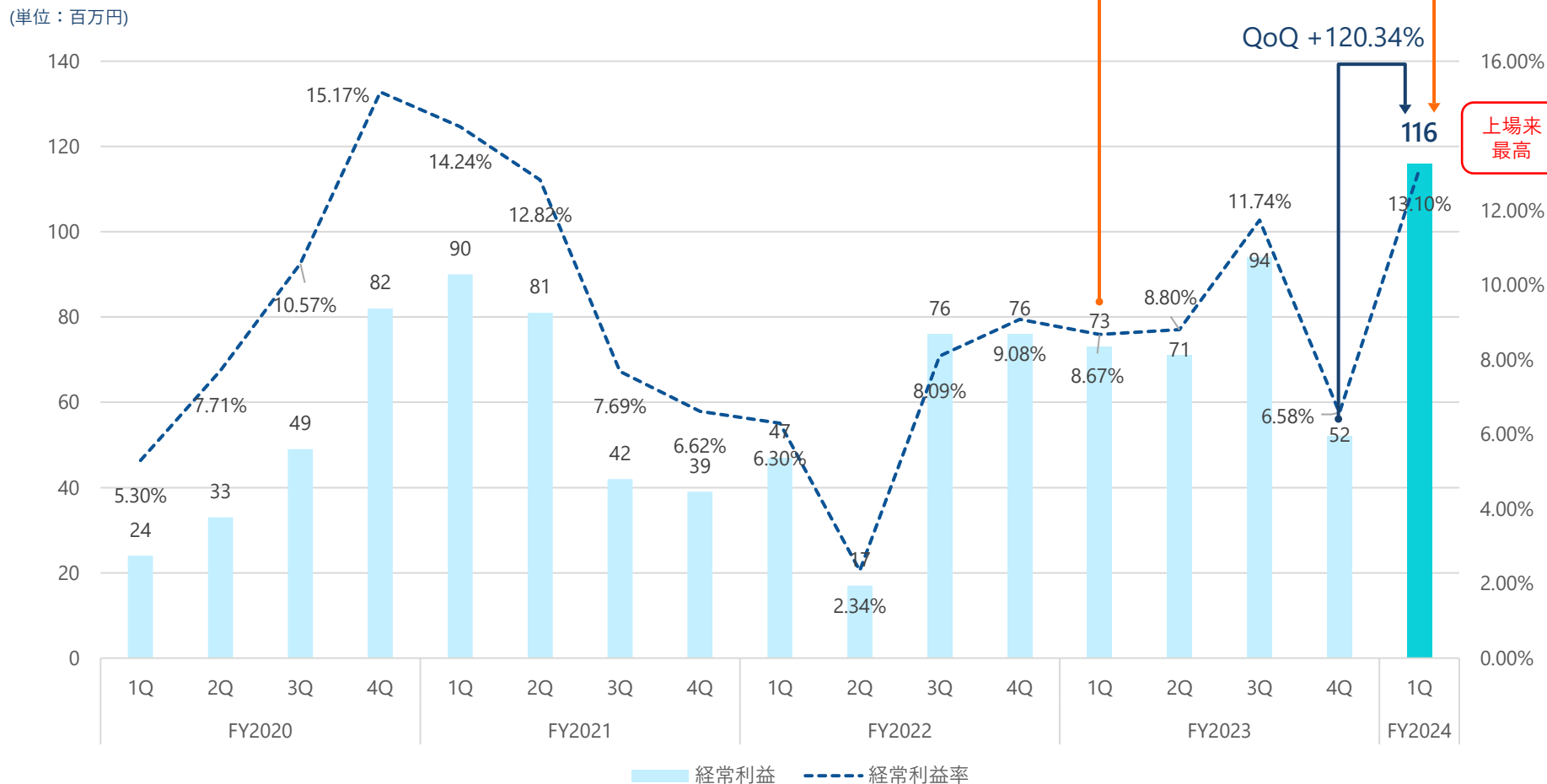
(単位：百万円)





# 経常利益（四半期毎推移）

- 営業利益と同様の推移

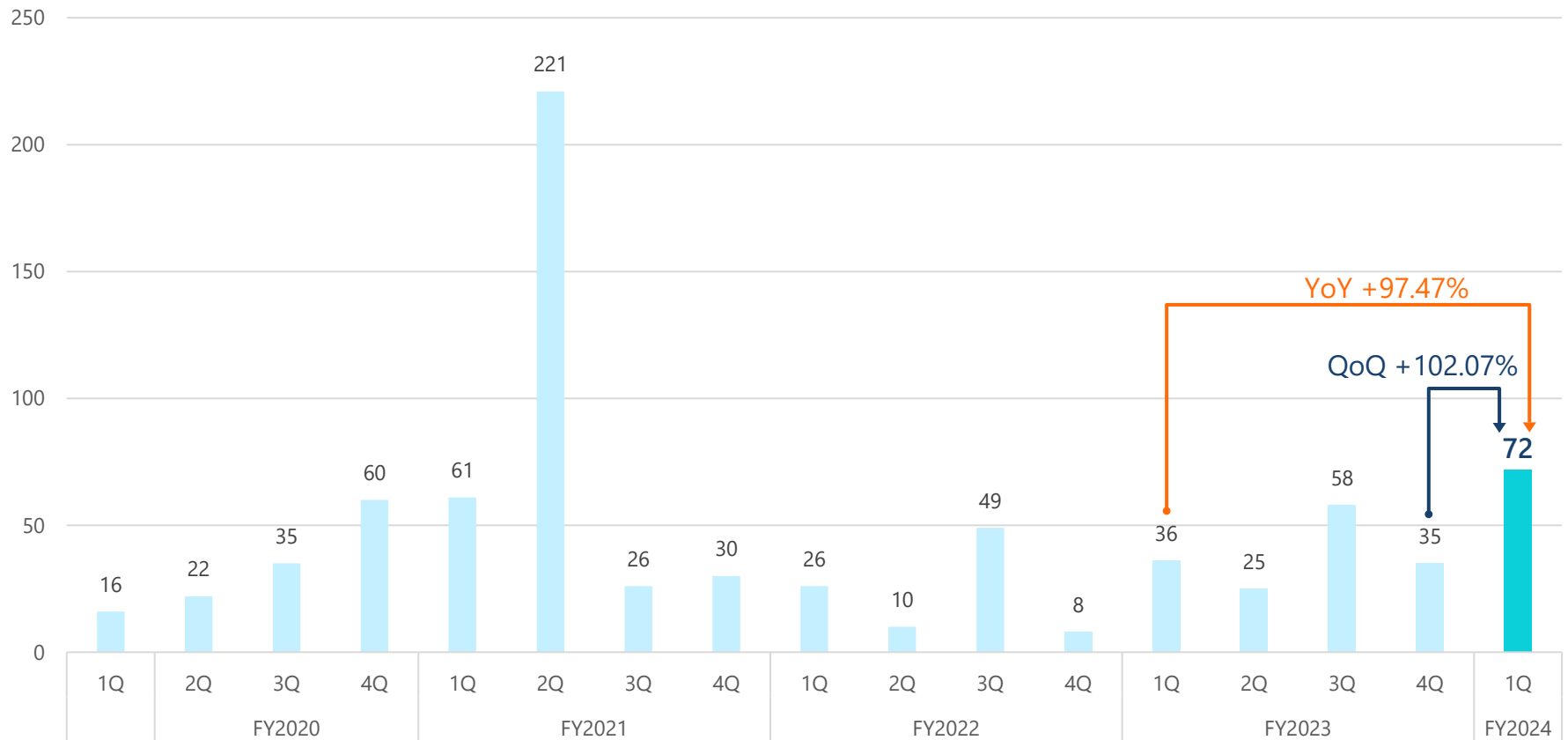




## 四半期純利益（四半期毎推移）

- 前四半期比においては、FY2023.4Qに投資有価証券の評価損失8百万円が発生したものの、経常利益の増加により36百万円の大幅増益（+102.07%）、前年同期比においても、35百万円の大幅増益（+97.47%）

(単位：百万円)



(※) FY2021.2Qはビジネスチャット事業の譲渡益を特別利益として257百万円計上しております。



(参考) 前年同連結累計期間比

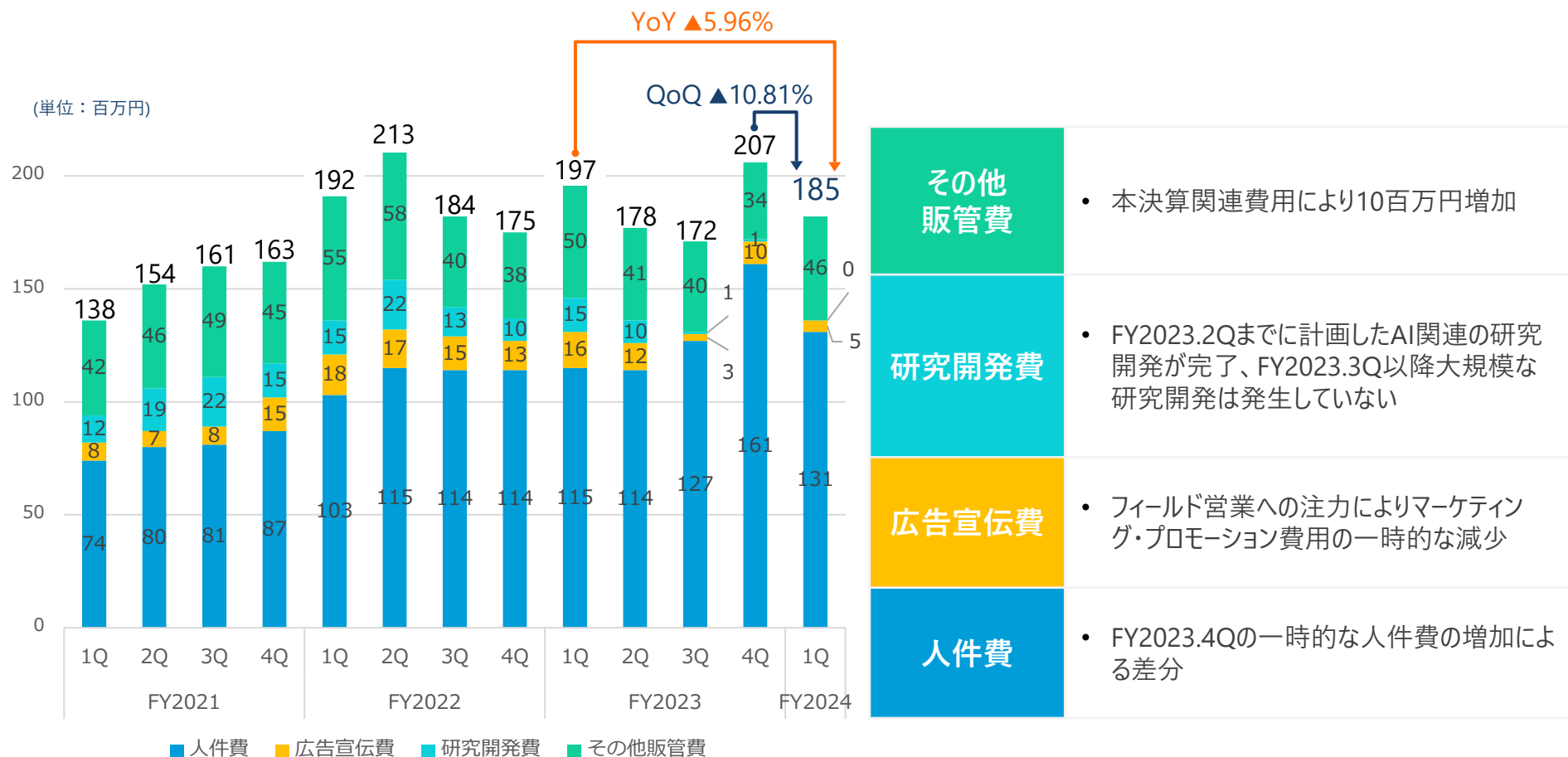
前事業年度より収益性の高い国内顧客に注力した結果、  
営業利益・経常利益は上場来最高益を達成

(単位：百万円)

	2024年12月期 第1四半期	2023年12月期 第1四半期	増減額	前年同期比
売上高	885	842	+42	+5.08%
営業利益	118 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 2px;">上場来最高</span>	78	+40	+51.72%
経常利益	116 <span style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 2px;">上場来最高</span>	73	+42	+58.73%
親会社株主に帰属する 当期純利益	72	36	+35	+97.47%

## 四半期毎 販売費および一般管理費推移 (四半期毎推移)

- 前四半期比は、FY2023.4Qの人件費の一時的な増加の反動により22百万円の減少 (▲10.81%)
- 前年同期比においては、研究開発の完了およびFY2023.3Q以降の広告宣伝費等の最適化により11百万円の減少 (▲5.96%)
- 前四半期比の分類毎の変動理由は以下の通り



(※ 1) FY2021.1Q~FY2021.2Qは単体決算、FY2021.3Q以降は連結決算数値

(※ 2) 2022年12月期第3四半期までは採用費を人件費に含めておりましたが、第4四半期より採用費はその他販管費に含めることとし、第3四半期以前の過去数値においても表示変更を行っております。



## FY2024業績予想進捗

- 売上・各段階利益ともに、メッセージングサービス売上が堅調に推移したことにより、高い進捗率で推移

(単位：百万円)

	FY2024.1Q	通期業績予想	通期業績予想 進捗率
売上高	885	2,831	31.29%
営業利益	118	300	39.62%
経常利益	116	295	39.34%
四半期純利益 (当期純利益)	72	175	41.53%

A horizontal decorative bar on the left side of the slide, transitioning from a dark blue on the left to a lighter cyan on the right with a rounded end.

# FY2024.1Q KPIサマリー



## KPIサマリー（四半期状況）

取引社数

6,414 社 (FY2024.1Q末時点)

前四半期比 +1.15% 

前年同期比 +8.86% 

SMS配信数

176.7 百万通

前四半期比 +16.01% 

前年同期比 ▲5.87% 

メッセージングサービス  
ARPU（顧客平均売上高）※

13.6 万円／社

前四半期比 +8.75% 

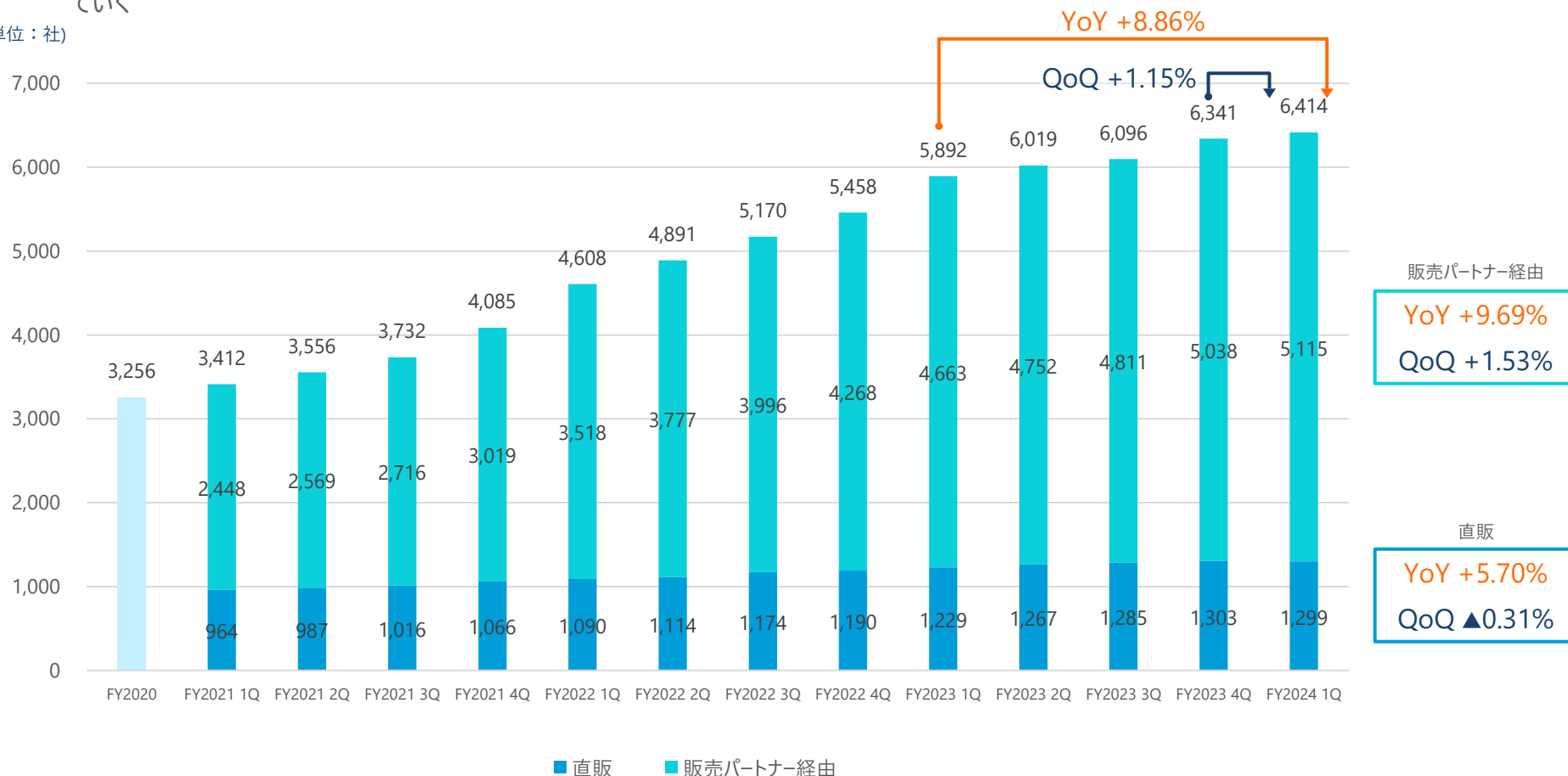
前年同期比 ▲3.77% 

（※） FY2024.1Qにおけるメッセージングサービス売上を同時点における取引社数で割ることにより算出

# メッセージングサービス取引社数

- 販売パートナー企業経由の顧客増加等により引き続き堅調な伸びを維持しており、前四半期比で77社の増加（+1.53%）、前年同期比で452社の増加（+9.69%）
- 引き続き、業界特化型かつSMSと親和性の高いアセットを保有する販売パートナーとの取り組みに集中し、更なる国内顧客の獲得へ繋げていく

(単位：社)

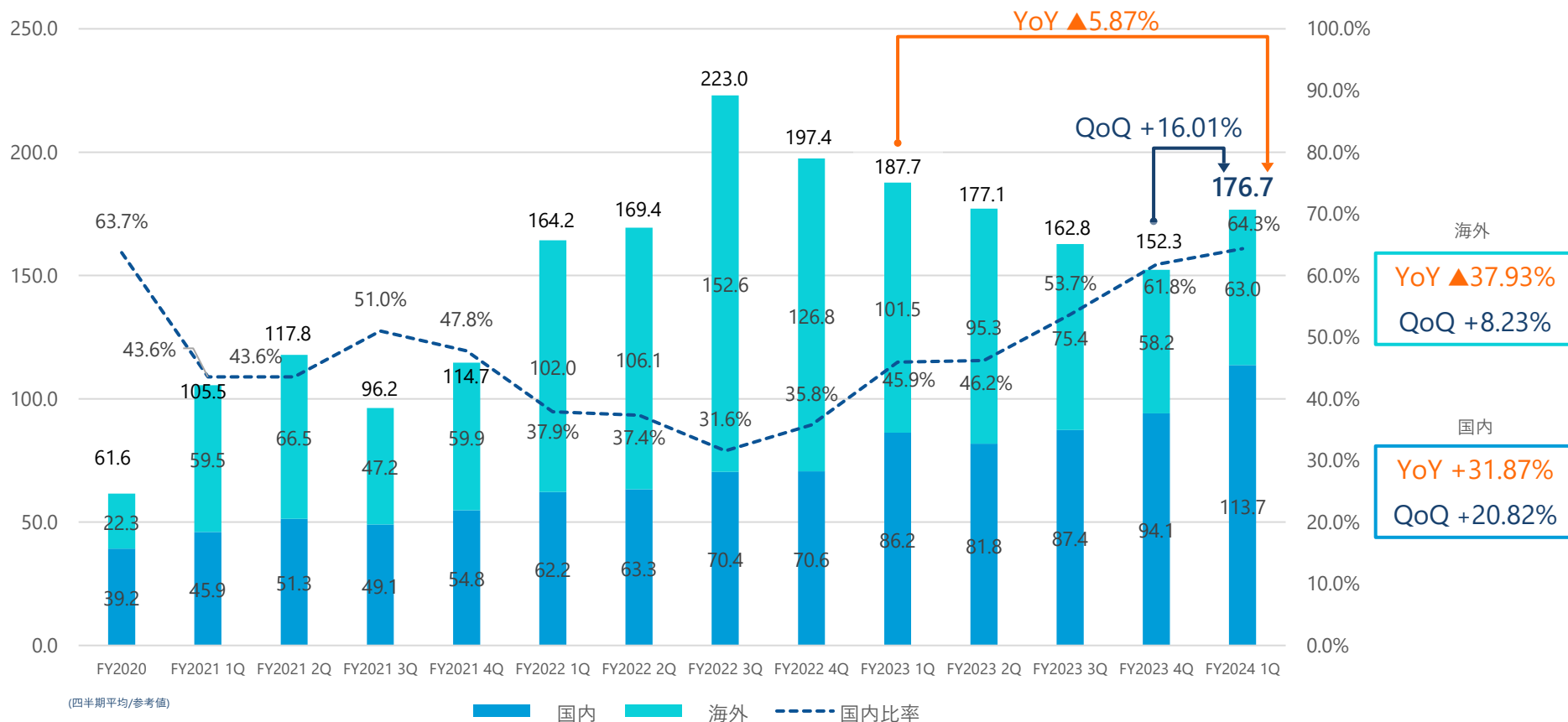


(※) FY2020に関しては四半期ごとの内訳データがないため各期末の数値

# SMS配信数

- 収益性の高い国内顧客の獲得および配信数の拡大に注力し、国内顧客のSMS配信数は前四半期比で19.6百万通の増加（+20.82%）、SMS配信数合計は24.4百万通の増加（+16.01%）
- 前年同期比においても、前四半期同様に国内顧客の獲得および配信数の拡大に注力したことにより、国内顧客のSMS配信数は27.5百万通の増加（+31.87%）

(単位：百万通)



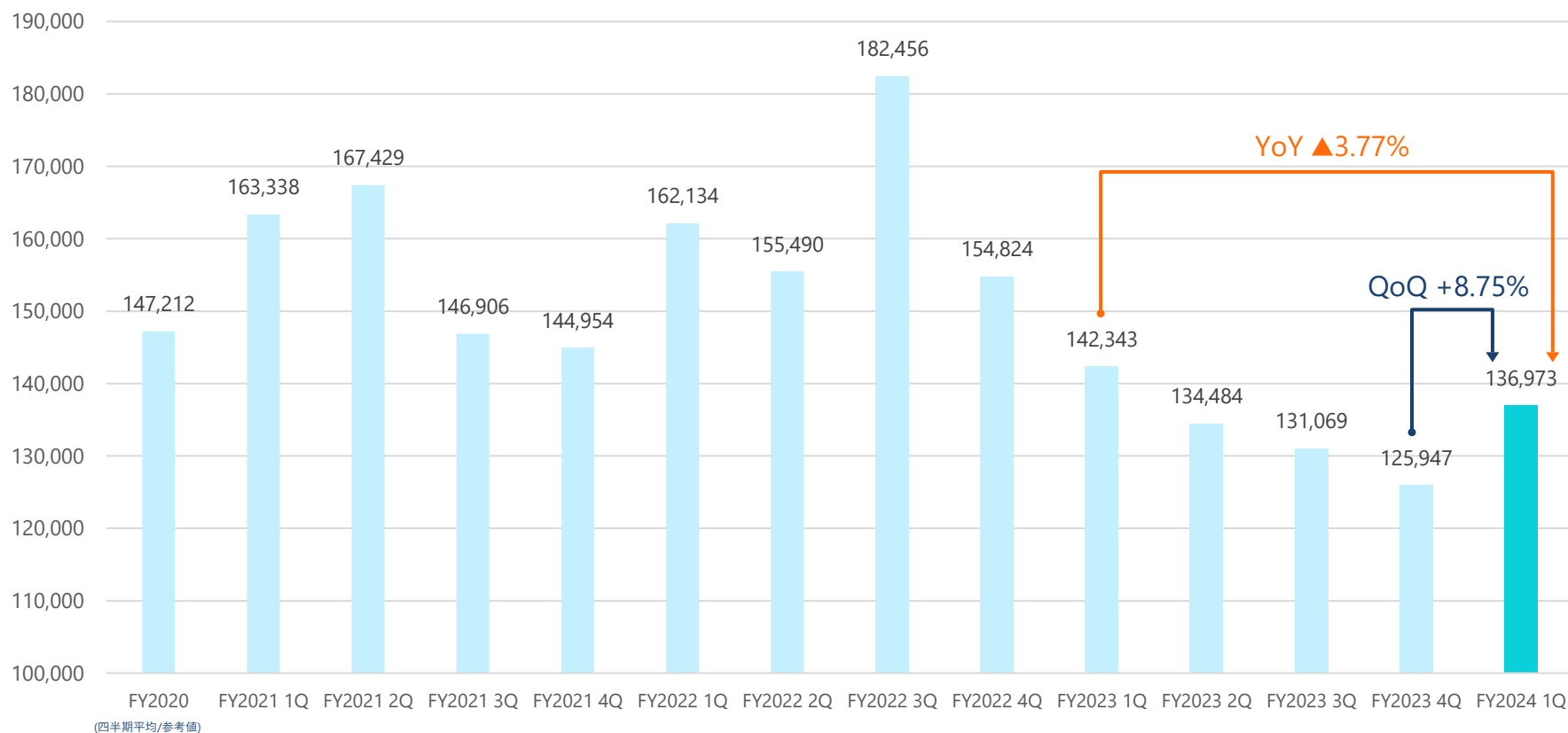
(※) FY2020は国内および海外の四半期毎の内訳データがないため、年間のSMS配信総数を4で割った参考数値



## メッセージングサービスARPU (顧客平均売上高)


- 海外含めた大型顧客の売上増加により、前四半期比で11,026円の増加 (+ 8.75%)
- 前年同期比においては、海外の大型顧客の売上減少により、5,370円の減少 (▲3.77%)

(単位：円)



(※) 各四半期におけるメッセージングサービス売上を各四半期末時点の取引社数で割ることにより算出

(※) FY2020は四半期毎の内訳データがないため、年間のARPUを4で割った参考数値



# FY2024.1Q ビジネスハイライト

## メッセージングサービス：営業利益率が改善

FY2023.1Q  
営業利益率

9.29%

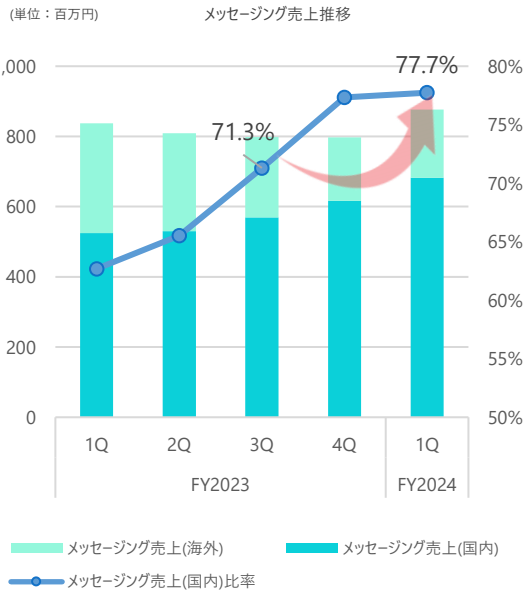


YoY +4.13%

FY2024.1Q  
営業利益率

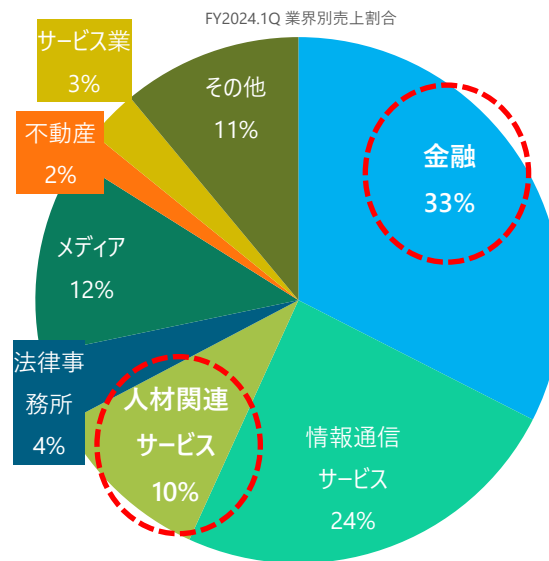
13.42%

### ① 継続して国内顧客へ注力



FY2023.3Qより収益性の高い国内顧客の獲得および配信数の拡大に注力したことにより、国内比率は77.7%

### ② 金融を中心とした業界特化施策



(※) 詳細はP.24「FY2024.1Q：業界特化施策状況」を参照ください。

金融や人材関連サービスが利益率改善を牽引

### ③ 提供価値の進化



顧客ジャーニーにおける課題にSMSを活用し、タッチポイント増加の事例を蓄積

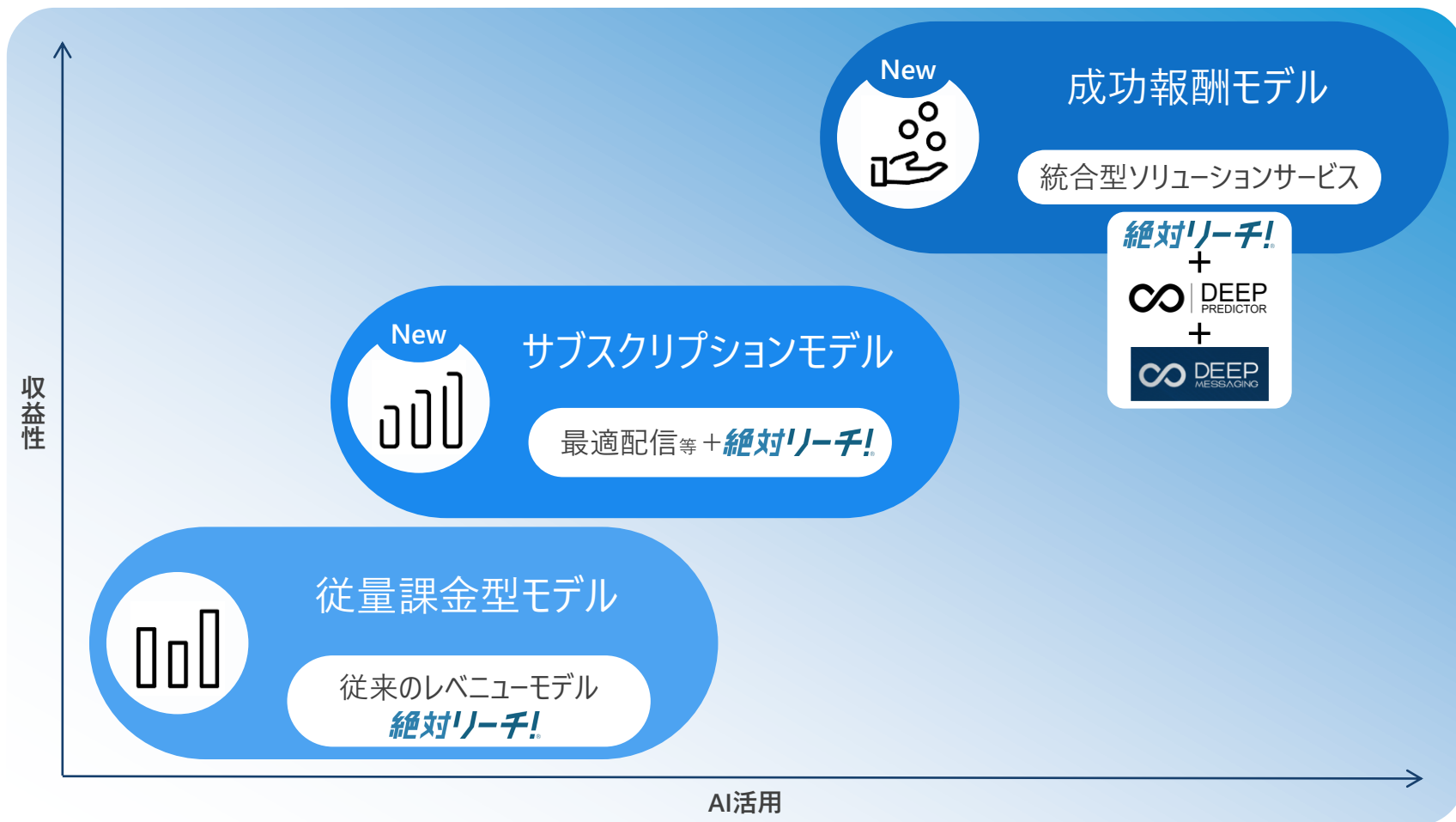
### CXツールへのSMSの進化

顧客ジャーニーにおける更なるタッチポイントの増加に向けて、当社の各プロダクトを活用し、統合型ソリューションサービスを提案



# メッセージングサービス：レベニューモデルの進化

## 新たなレベニューモデルを導入し、AI活用により収益性を向上を実現



(※) レベニューモデルの詳細はP.28「目指すべきレベニューモデル」を参照ください。

お客様の課題解決に向けて、需要予測や来客予測などの  
AI予測のPoC (※) を蓄積

~FY25

事業の柱へ

FY24 注力方針

AIを活用した事業の創出

— FY24.1Qの主な実績

- ◆ **在庫最適化/某専門商社案件**  
過去の売上・在庫データや外部データを学習し、需要予測し、仕入を管理
- ◆ **宿泊料金最適化/某大手システム会社案件**  
予約データや部屋タイプ、日付等から予約傾向（ブッキングカーブ）を予測し、ホテルのダイナミックプライシングに活用
- ◆ **生成AI活用DX/某大手プラント会社案件**  
各プロジェクトの作成文書データを蓄積したデータベースの検索結果として、生成AIを活用した対象書データの要約を出力

AI関連サービス

CXツールへのSMSの進化

AIを活用しユーザーの行動変容を促すツールにSMSを進化

メッセージング  
サービス

22/7月～

メッセージ配信最適化に向けた  
AI活用、AI SaaS開発

**絶対リーチ!SMS**  
powered by ChatGPT

**DEEP PREDICTOR**

**DEEP MESSAGING**

FY2022

FY2023

FY2024

(※) PoC：“Proof of Concept”の略。新しい技術やソフトウェアの開発において、その実現可能性や有用性を確認するための重要なステップのこと。



# Appendix

# Appendix – 01

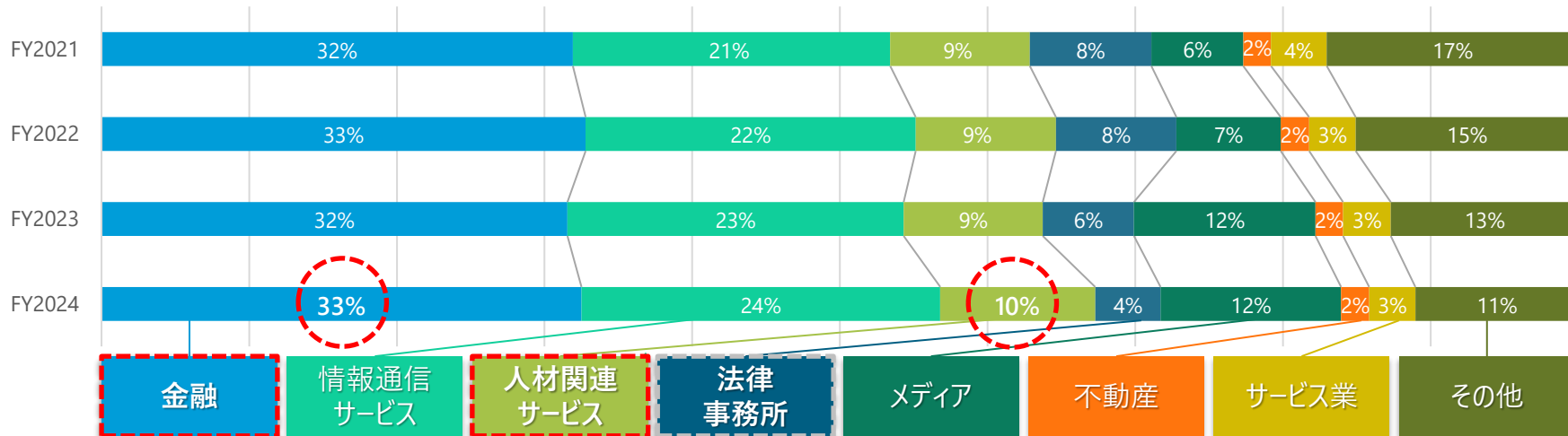
## 施策詳細



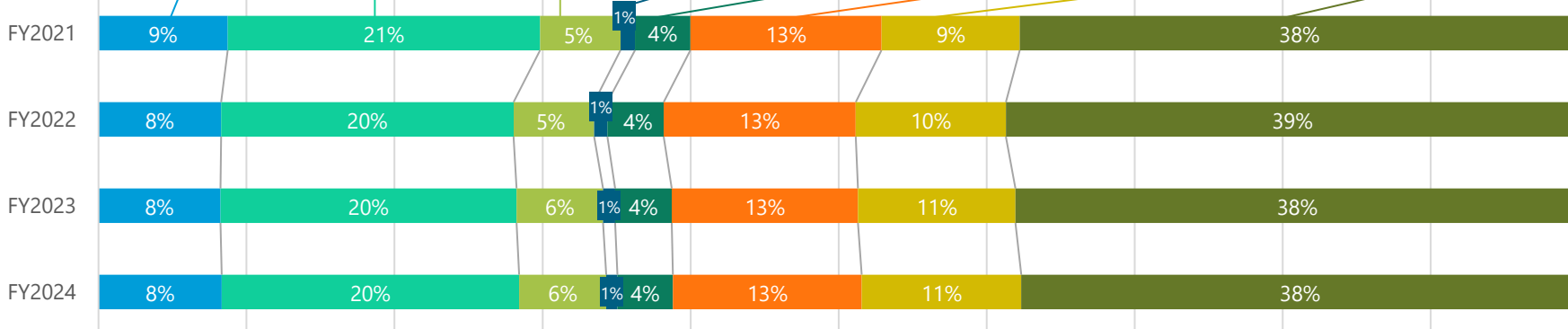
# FY2024.1Q：業界特化施策状況

高い配信単価が期待できる業界（金融、人材関連サービス）のユースケースを積み上げ、積極的に営業活動を展開

業界別売上高比率



業界別社数比率



(※) 情報通信サービス…ソフトウェア開発、通信インフラ、通信事業者など  
 (※) メディア…広告、マスメディアなど  
 (※) サービス業…店舗系など

◎金融：事例展開によるへのSmartXChat導入…ユースケース活用  
 ◎人材関連サービス：採用シーンの事例蓄積…統合型ソリューション提案  
 △法律事務所：他業界の実績を展開予定(一時的に施策保留)



Appendix – 02  
FY2024事業戦略



# SMSによる「提供価値の進化」

## 従来の提供価値

リーチ

届ける

気づかせる

「気づかせる」ツールとしてのSMS利用

認証



督促



業務連絡

## CXツールへ進化

CV

見せる

行動させる

ユーザーの「行動変容を促す」  
ツールにSMSを進化

会員登録



EC



予約



## 取り巻く環境

### SMS市場における価格競争の激化

キャリアを含めたSMS配信事業者の増加により  
価格競争が激化し単価下落のリスクが増加

### 生成AI等による第4次AIブーム

ChatGPTやBard 等による生成AIの急速な発展・利用により  
AI民主化の波が一気に加速、AIの利用拡大が見込まれる

## 注力方針

### SMS原点回帰で国内伸長

収益性の高い国内顧客への営業活動に注力  
新たな収益モデルを開発し、利益率を改善

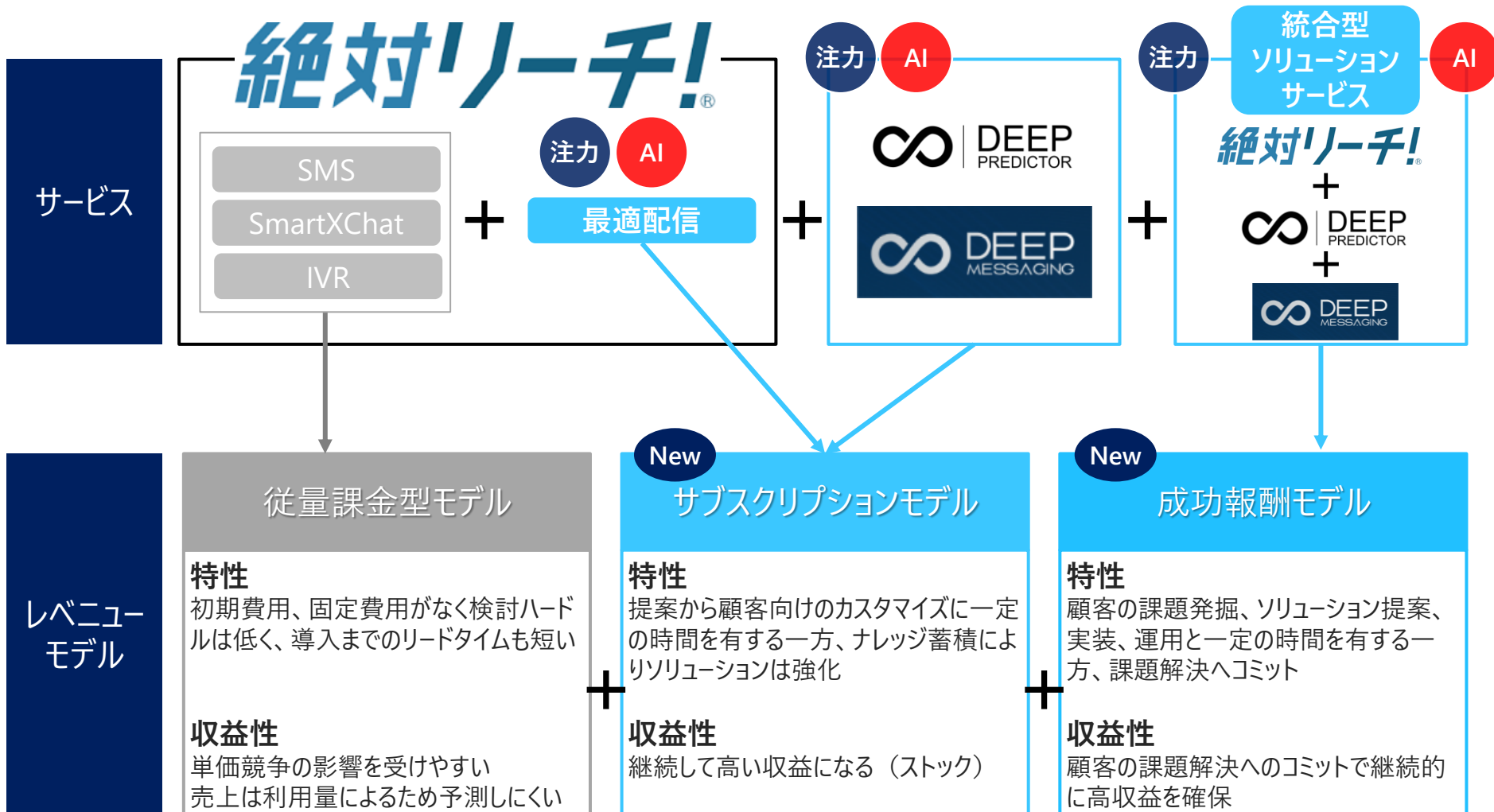
### CXツールへのSMSの進化

ユーザーの行動変容を促すツールにSMSを進化

### AIを活用した事業の創出

Deep Predictor / Deep Messagingにリソースを集中  
勝ちパターンを構築し「事業の柱」に向け準備

変容する顧客ニーズに対し価値提供のコミットメントを強化するレベニューモデルを導入



Appendix – 03

## メッセージング市場概況



## 携帯番号に紐付き、コスト効率／1通で他ツールを圧倒するコミュニケーション

今後は「会員連絡」・「販促」など、より付加価値の高い領域での  
コミュニケーション活用が期待される

特長

1

確実



メッセージ到達  
99.9%

特長

2

安い



紙DMと比較して  
1/28以上 低コスト化可能

特長

3

広範囲



日本で使われる1.8億の  
携帯電話番号へつながる

(※) 紙DM1通あたりの製作費+印刷+送料 (A4両面/100通)  
¥345と想定し、SMS¥12/1通を比較した場合

## 法人とユーザー間のコミュニケーション課題に対して解決力を持つSMS

企業のコミュニケーション課題とSMSによる解決力一例

なりすまし被害



ユーザー本人になりすます不正が相次ぐ  
ID／パスワード

つながらない



督促業務での非効率な電話対応と  
かさむ人件費

高コストな  
郵送



紙のダイレクトメールによる印刷・制作・  
発送コスト

開かれない  
メルマガ



乱用した結果見られなくなった  
メール

『二段階認証』で  
の堅牢化

スマホへ確実にメ  
ッセージ送達

必要な情報を  
高い開封率で送達

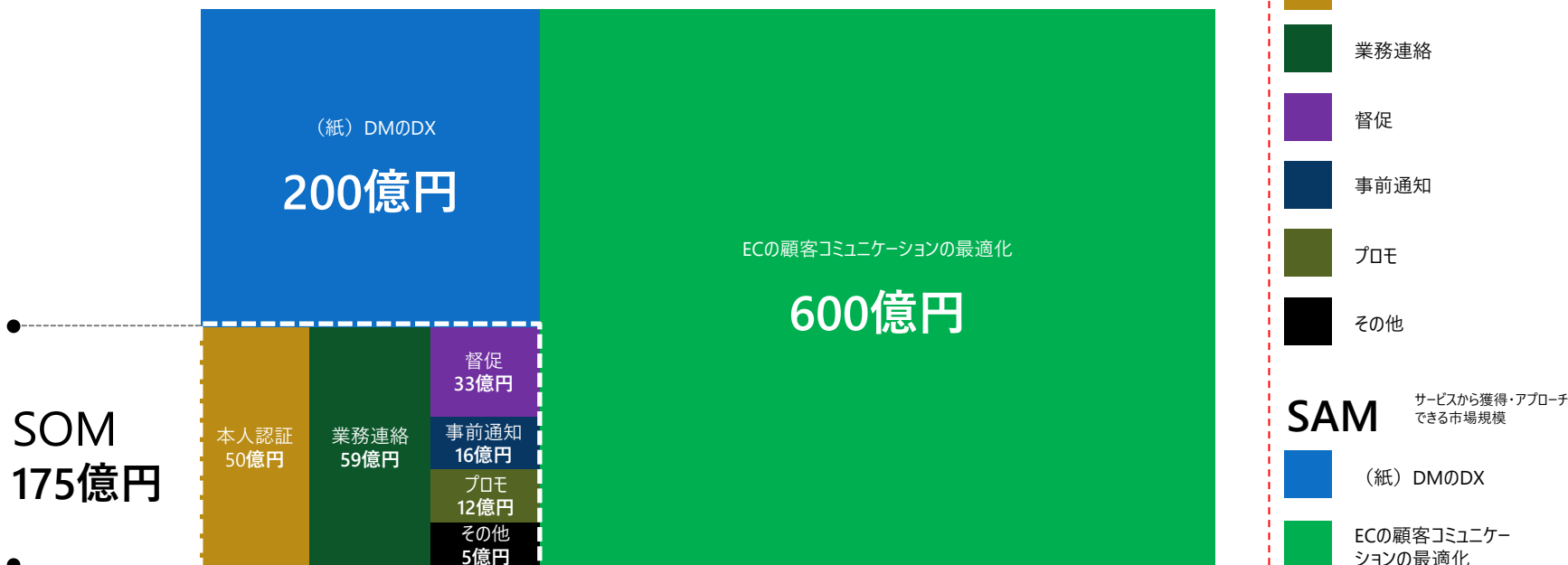
重要なユーザーへ  
の連絡手段



## メッセージング領域で獲得しうる市場規模は約975億円と想定

### SAM 975億円

SOM 実際には獲得できる顧客層および市場



市場規模算出はシンクタンク調査および企業の決算発表等を参考に、AI CROSSが独自の戦略・調査・分析により算出

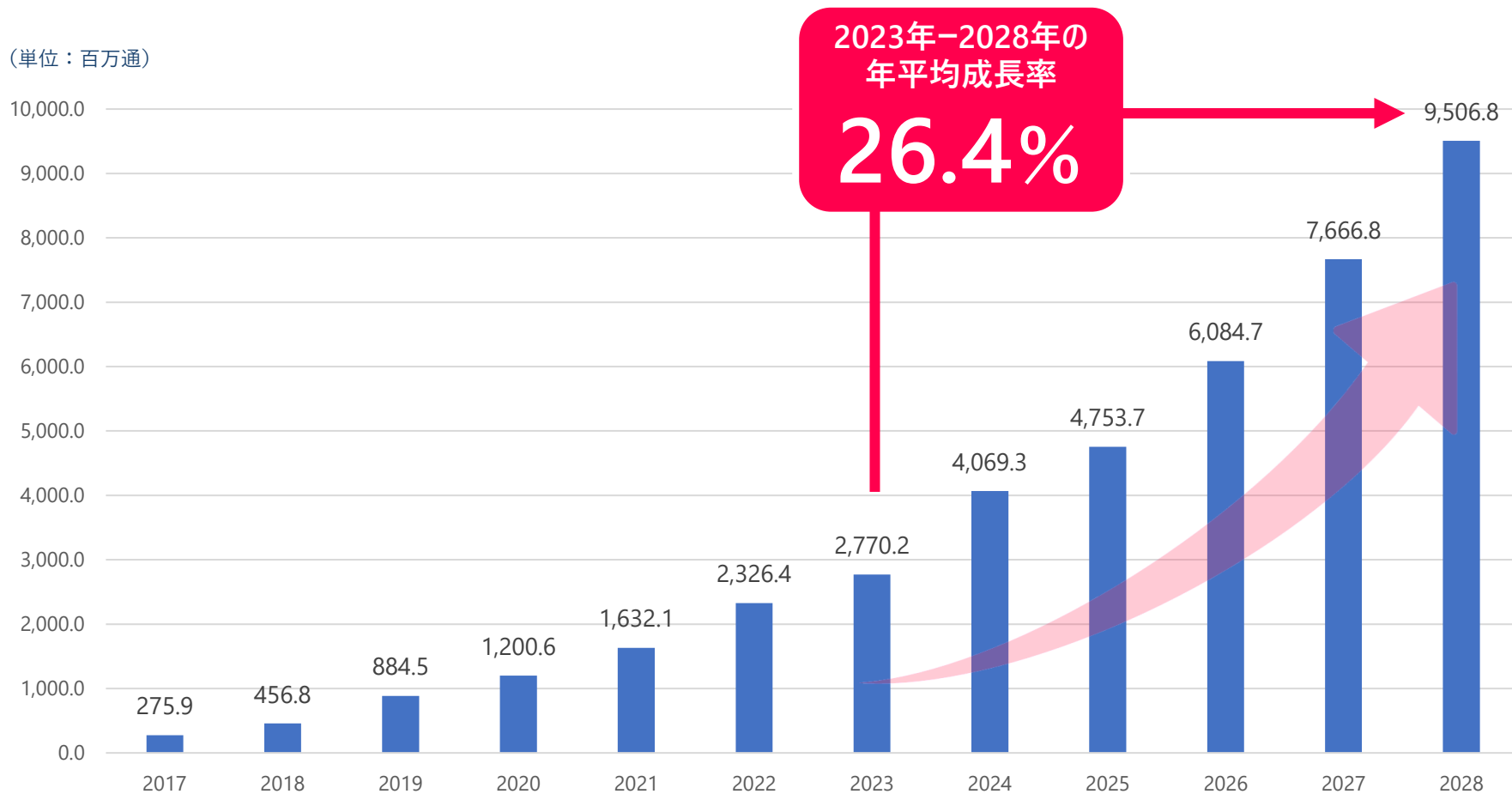
参考資料  
 ①株式会社電通 リポート「電通「2021 日本 の 広告 費」」  
 ②株式会社アイ・ティ・アール レポート「メール/Webマーケティング市場2021」  
 ③株式会社アララ IR発表資料「2021年8月期決算説明資料」





# 国内SMS市場の配信数の中期予測

(単位：百万通)



(※)海外アグリゲーターによる配信数を除く

(※) 出典：デロイト トーマツ ミック経済研究所株式会社 ミックITレポート 2024年1月号「2023年度に急ブレーキがかかるも2028年度まで成長期が続くA2P-SMS市場 | 国内アグリゲーターとキャリア・アグリゲーターの配信数と売上高（海外アグリゲーター除く）」

## 根幹となるSMS市場は参入障壁が高く、BIG4社による寡占市場

### 寡占市場による安定性



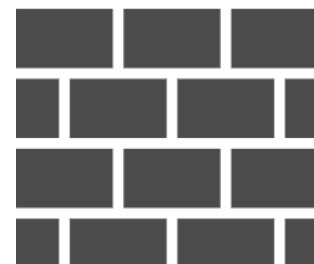
BIG4 :

AI CROSS・アクリート・メディア4u・大手通信キャリア系企業

### 寡占市場

4社で、SMS市場の  
ほぼ全てを占める。

### 高い参入障壁



### 規模の経済性

仕入先が通信会社（キャリア）で  
ある関係上、通信量で仕入れ価格が決定。

Appendix – 04  
AI CROSSのご紹介

会社名

AI CROSS株式会社（証券コード：4476）

所在地

〒105-6020 東京都港区虎ノ門4-3-1城山トラストタワー20F

事業内容

Smart AI Engagement事業

設立

2015年3月

役員構成

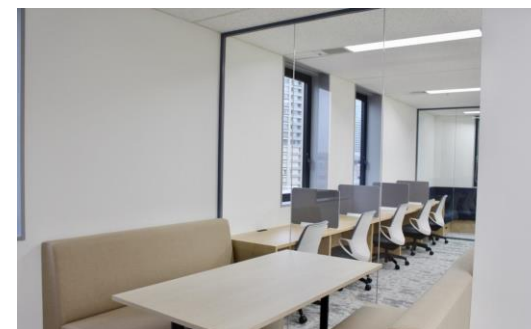
代表取締役	原田 典子
取締役	菅野 智也
取締役（監査等委員）	鈴木 さなえ
取締役（社外、監査等委員）	仙石 実
取締役（社外、監査等委員）	松永 暁太

女性役員の  
比率：

40%

従業員数

52名（2024年3月末時点） ※パートタイマーおよびアルバイトを含む



# Smart Work, Smart Life

テクノロジーでビジネススタイルをスマートに



代表取締役CEO

### 原田 典子 (Harada Noriko)

1998年慶應義塾大学経済学部卒業。ドイツ系ソフトウェア企業、SAPでテクニカルコンサルタントとして働いた後、システム開発ベンチャー企業に入社。同社アメリカ法人設立のため渡米。シアトル、サンノゼ、ニューヨークなどでアメリカのネットビジネス、ITトレンドの調査および提携・アライアンス業務などを行う。2015年3月より現職。



取締役COO

### 菅野 智也 (Kanno Tomoya)

SMS事業部の営業部長として着任した後、BtoBtoC市場での潜在化ニーズの掘り起こし、活用モデルの検討・提案および提携・アライアンス業務にてサービス推進を担い、2018年1月営業部長に就任。2018年3月より現職。

## 企業も、そこで働くヒトも、そして社会も、もっとスマートにできる

### 事業設立に至る2つのきっかけ

#### ①仕事上の経験

元々アメリカで、日本にない事業という観点で市場調査や提携先の調査を実施。

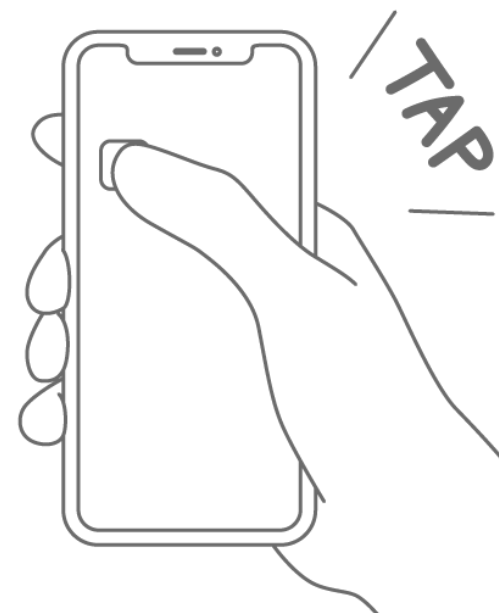
その時目をつけたのが、ショートメッセージサービス（SMS）。

売上を短期間で68倍にまでする企業もあった。

#### ②私生活での体験

米国での出産時、妊婦向けの適切なアドバイスを簡潔に送ってくれるSMSを直接活用。子育てをしながら働くことを実現できたことに感動。

一方帰国後、日本では当時まだ郵送がメイン、加えて文字がやたら多く分かりにくく、不便さが際立って見えた。





## 説明会の開催について



Smart Work, Smart Life  
テクノロジーでビジネススタイルをスマートに

### 会社HPでの動画掲載

弊社HP (<https://aicross.co.jp/ir/>) において、本決算の概要、成長戦略等を代表の原田よりご説明する動画をアップいたします（5月20日以降 掲載予定）。





## 本資料の取り扱いについて

本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。